

とよなか市民環境会議 ニュースレター

Toyonaka Citizen Environmental Conference

2002年(平成14年)10月号(通巻第18号)

6月25日13時30分から豊中市立市民会館でとよなか市民環境会議第7回総会を開催。開会時の出席者は173人。議事に続き同志社大学新川達郎さんの「これからの市民活動を考える」と題した記念講演がありました(次頁)。

市民環境会議第7回総会・新しい組織設立も

第7回総会は初めに会長(一色貞輝市長)あいさつがあり、新しい年度から推進組織として豊中アジエンダ21推進会を新たに組織替えることも含めたていねいな説明もあり、新しい豊中アジエンダ21推進会への結集の呼びかけもなされました。

来賓としては福本育馬市議会議長から次のようにあいさつがありました。「環境重視型社会システムへの動きが加速しつつある時代に、住みよい地球を守って環境にやさしい豊中市を次世代に引き継ぐ使命の重大さを痛感しています。日頃からの温かいご理解とご協力に感謝を申し上げますとともに、皆さんのより一層のご活躍を祈念いたします」(要旨)。

総会の議事としては、平成13年度の活動について新開悦子幹事が報告、決算は真庭本江副会長が、同決算監査は峰岸暁美会計監査が報告し、承認されました。

規約改正(ワーキンググループから豊中アジエンダ21推進会に組織を変更することを含む)については事務局が提案し決定。



続いて新役員体制は谷口佳以子副会長が、活動方針は山田吉弘副会長が提案しそれぞれ決定。

豊中アジエンダ21推進会の発足が決められたので議事の中に挿んで、ワーキンググループ運営委員長であった河野猪太夫氏が新体制発足の決意表明を行い、新しい組織への参加協力をお願いしました。

なお平成14年度のとよなか市民環境会議活動方針では、次の項目が提起されました。

1. 環境基本条例の実現
2. 地球温暖化対策推進実行計画の推進と進行管理、市民、事業者による活動の推進
3. 緑と食品のリサイクルプラザの運営と市民との協働
4. 循環型社会の構築

本号のハイライト

- P.1~2 第7回総会・アジエンダ設立総会
- P.3 自然部会・生活部会
- P.4 参加団体の紹介 大阪北生協
- P.5 ひと・人・hitoー佐川直史さん
- P.6~7 豊中まつり

豊中アジェンダ21推進会発足

とよなか市民環境会議の推進組織として

豊中アジェンダ21推進会の設立総会は、とよなか市民環境会議総会と記念講演に続き15時30分から開会。

呼びかけ人の高島邦子氏が開会あいさつ。議長は奥野享氏を、総会の記録は中村義世氏を決めて議事に入りました。また設立総会にも一色貞輝市長の出席があり、冒頭にあいさつを頂きました。

発起人代表の河野猪太夫氏のあいさつがあって、すぐに議事の内容に入り、まず豊中アジェンダ21推進会の会則(案)は新開悦子氏により提案説明がおこなわれました。会場から「アジェンダの言葉はどうしても一般に馴染みにくい。それらの問題も十分にわきまえつつ運動を」の意見が出され、呼びかけ人側から河野氏が「ご意見に應えるよう、運動の中でできるだけ努力したい」旨を答弁、提案の会則原案を拍手で決定する。続いて新年度の役員選出。宮田健氏が提案し提案通り決定の後、選出した役員を起立により紹介。代表して河野猪太夫氏があいさつ。



最後に、新年度の活動計画(案)と予算(案)をそれぞれ山口寿氏と荒井道子氏が提案し、質問意見なく決定しました。

なお選出された役員は次の通りです。

運営委員：河野猪太夫(委員長)、新開悦子(副委員長)、荒井道子(会計)、茨木かづ子、易信子、奥野享、高島邦子、中村義世、堀正恒、水野辰彦、三宅史郎、宮田健、本岡和巳、山口寿。(合計15人)

監査：今井文子、中井健之。

13時30分から始まった総会の全日程は3時間に及び長いものだったが、問題なく予定の議事ならびに講演を終了することができました。設立総会の最後まで

参加があったのは、約50人でした。ご協力ありがとうございます。なお、この日受付では豊中アジェンダ21推進会の入会を呼びかけましたが、当日だけで個人会員45口(36名)の入会がありました。9月6日現在の入会者は次のとおり。個人・104口・73名 団体・29.5口 法人・21口(奥野)

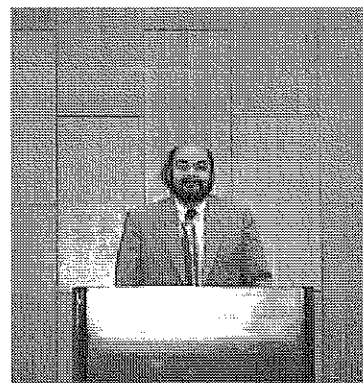
記念講演「これからの市民活動を考える」

市民活動が今もっとも注目されています。阪神大震災からボランティアの活動も大きくクローズアップされましたが、ボランティア活動だけでなく行政も含めガバナンス(統治)が変わりつつあります。NPO法の制定もそんな背景からです。営利目的でなく「何かをしよう」という色々な使命感をもった社会的エネルギーが動こうとしています。それらを社会的にちゃんと認知することが必要な時代です。

そこで行政と企業と市民とが連携協力する、パートナーシップ社会へと変わって来ているのです。市民にできることとして、次の4つでしょう。①知り

新川達朗さん
(同志社大学大学院教授)

合いへと参加者の輪を広げましょう。②中間的な支援組織が役に立ちます。③経営化も考え、運営のため体制整備は重要です。④マナーを越え新しいチャレンジもしましょう。



自然部会・第八中ボランティア体験学習支援

竹の間伐と笹刈り

7月10日(水)に豊中市立第八中学校で、1年生のボランティア体験学習が行われ、自然部会から8名が参加し支援した。1年生のこの学習は、福祉と環境の2グループに分かれ、この日は環境ボランティア体験を希望した80名余りが参加した。

この日に先立って6月12日(水)に生活部会から奥野さん、自然部会から易さんがスライドなどを交えながら、それぞれの体験を話している。



朝9時、夜来の雨が少し残る中庭に生徒達は集合していた。ここで再度の今日の目的と作業上の注意をし、千里中央公園と榎の木公園に分かれて出発した。

雨は歩いているうちに上がったが、藪の中は露が葉にたまって、湿度100%、少しの作業でも衣服は汗ビショリ。生徒達は慣れない作業にとまどいながら正味1時間余り懸命に頑張った。さすが多数の力はすごいもので思ったより多くの作業が出来た。最後は雑木林の自然について実物に触れながらの話を聞き学校への帰途についた。(山口)

生活部会・環境家計簿とグリーン購入

昨年の環境家計簿モニター集計まとまる

昨年の環境家計簿モニターに報告してもらった二酸化炭素排出量の集約ができました。環境家計簿モニターによる調査も3年続けると色々な興味ある結果がみられます。

全体の集計で、2001年の二酸化炭素排出量は前年に比べ1世帯当り年間180kg減(15%)になっ

別表 年間総二酸化炭素排出量の比較			
	車なし	車あり	あり/なしの比率
2人世帯	706kg	1,105kg	1.57倍
3人世帯	816	1,620	1.99倍
4人世帯	1,100	1,342	1.22倍
5人世帯	1,429	1,411	0.99倍

ていました。とくにその中でもガソリン消費量減が大きく減り、前年より107kg減になっています。モニターの感想でもマイカーを廃車にした話や、阪急バ

スが高齢者向けのバスを売り出したのもっぱらバス利用になったことなどが報告されていました。

車あり世帯と車なし世帯との比較では、3人家族でいちばん二酸化炭素排出量の較差が大きく、4人家族以上になると、年間を通じての差が非常に小さくなっていました。暮らしの中での車利用の仕方とどんな違いがあるのか、今後も追究したいところです。

グリーン購入でのフリー討論

6月から定例部会で「グリーン購入」の学習を含めたフリー討論を始めています。これは買物袋持参運動だけでなく、もう少し枠を広げ角度を変えて環境に配慮した買物を再認識しようというのがねらいです。

第1回目は「私のイチオシの品」というテーマで推奨品を書き出してみました。自由にイチオシを出してみると食品に関する物が半ばを占め、体によいものを買う気配りの強いのに気づきました。以後少しずつ討論内容を絞りこみ運動の方向を探っていく予定です。

(奥野)

グリーンコンシューマーを育てる

大阪北生活協同組合

身近な買い物袋持参を 環境問題への「気づき」に

1950年設立の大阪北生活協同組合は、現在19店舗と組合員22万人の大組織だ。

以前から環境への取り組みをしていた大阪北生協は、1978年に買い物袋再利用運動を始めた。現在普通の



小売店での買い物袋持参率が平均15%程度なのに、大阪北生協全店舗平均が31%。特にダイオキシンが問題になった豊能町にあるコープ新光風台では、持参率50%以上と組合員の関心は高い。買い物袋を持参するともらえるエコシールを集めて100円割引券、ショッピングバッグ、寄付金などに交換できるシステムがあるが、今年は平均持参率35%を目標に、バッグ交換期間を年2回から通年に延長。さらに6月の環境月間にはラップや水切り袋などの環境商品の交換を加えた。寄付金で食品トレイ再生のエコベンチを購入し、毎年2回、学校や福祉施設に寄贈している。

リサイクル活動は大変

大阪北生協のリサイクル活動のスタートは1990年の牛乳パック回収。現在は紙パック、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、食品トレイ、空き瓶、ボタン電池、ハンガー、宅配用カタログと卵ケースの10品目を回収。組合員の声で始まった宅配用の卵ケースの回収が好評である。店舗でも実験的に回収ボックスを置いたが、再生できない材質の卵ケースが混入して、対策に悩んでいる。店頭回収の紙パック、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、食品トレイの5品目は西宮

市鳴尾浜の配送センターに持ち込むが、2001年度の処理費用471万円に対して、売却益が64万円と非常に負担が大きい。スチール缶やペットボトル、食品トレイは配送料と処理費用が高く、差額は紙パックとアルミ缶のわずかな売却益で補っている。

環境に配慮する市民を育てる

大阪北生協は2000年ISO14001を取得。事務用品は再生紙、再生原料のものを使用、店内のカゴや職員のエプロンも再生原料。さらに店舗設備にはソーラーパネルや雨水利用の「天水尊」、再生ガラススタイル、間伐材製の陳列棚など環境に配慮したものもある。また、宅配用トラックに天然ガス車3台、LPG車17台を購入し、ガソリン車、ディーゼル車の走行距離を減らすために毎月走行コースを見直している。

食品リサイクル法「総排出量の2割をリサイクル」の基準を満たすためにコープ茨木白川に生ゴミ処理機を導入。店に出る1日50kgの野菜くずは月10kgの



堆肥になり、奈良・大和高田の農園で使われているが、廃棄ロスを防ぐなど廃棄量全体を減らす努力もしている。包装容器を減らすために生協の環境商品の簡易包装化、コープ箕面中央、コープ茨木白川で野菜や果物の量り売りも始まった。

「昔は環境問題イコール公害で目標がはっきりしていましたが、今はダイオキシンや地球温暖化など、目標の範囲があいまいで取り組みが大変になりました。組合員それぞれに意識を持ってもらえるように働きかけていくのが、生協としての務めです。それがグリーンコンシューマーにつながりますから」と大阪北生協で環境問題を担当する松井さんは語った。(小南)

ひと・人・hito 佐川 直史さん(産業部会アドバイザー)

このコーナーは地域や家庭など身近なところで環境に取り組んでいる人を紹介しています。

佐川直史(さがわ ただし)さんは椅子に座るなりカバンから3つの封筒を出し「今、こんなことをやっています」と単刀直入の話で始まりました。取材の説明などは抜きです。出された封筒にたちまちとりこになりました。

「このA4封筒は、上部と左とにミシン目が入っています。使用後はミシン目を切れば書類のファイル・ホルダーに使えます。省資源のヒントを提供する文具です」と二種類の紙質のものが。アイディアに脱帽。

— もう一つの白色度50%くらいの封筒は?

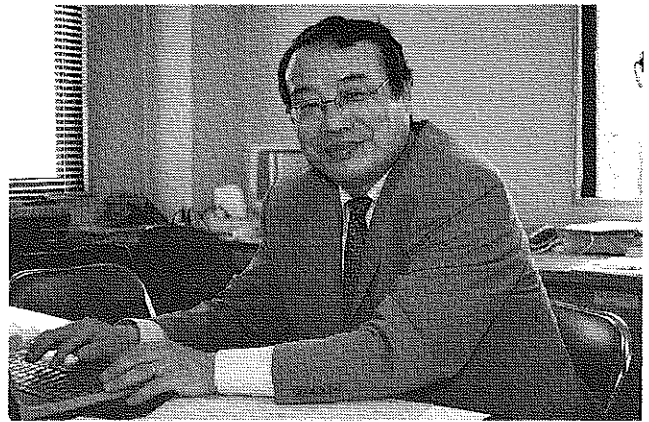
「これはコミック誌を原料にしたほとんど晒していない再生紙100%の封筒です。新聞などのリサイクルは進んでいますが、リサイクルしにくいコミック誌古紙の活用です」。豊中アジェンダ21推進会の封筒はクラフト紙にしました。もちろん再生紙100%です。

— コミック誌からの再生紙は安いのですか?

「現状ではクラフト紙がいちばん安く、コミック誌のものはまだ5割高です。量産できればもっと安くなるでしょうけど」

— 佐川さんの日頃の仕事はもっぱらISO14000シリーズのアドバイザーだと思っていましたが。

「企業内での省エネや資源の有効利用、リサイクルだけではISOも限界があります。企業は次の段階の



環境対策を模索しています。次の段階はエコロジーな製品開発へと発展させることです。ISOも見直しの時期に差しかかっていると言えます」

佐川さんの企業向けの環境対策は次々と貪欲です。この間に商品輸送の話題も盛り上がりました。

— ISOは第1段階が企業内の省エネ・省資源、第2段階が輸送のあり方…。その次の段階は?

「価値観を変えていくこと」

「企業が出している『環境白書』を見るとそれぞれが懸命に追究しているのも見えてきます」。

言いながら、パソコンを取り出し環境白書のフォルダーを開いてくれました。冒頭の封筒も現場での意識を刺激し価値観を変えるものなのではないでしょうか。いろいろな新しい刺激をもらったインタビューでした。

質問箱 買物袋持参運動について

Q 昨年、一昨年は秋に学校で買物袋持参運動のアンケートを行ったり、スーパーなどの店頭で買物袋持参のキャンペーンを行なったのを覚えています。今年はどうなっているのですか。

A 買物袋持参運動はレジ袋を減らす運動です。5年前に運動を始めた頃はスタンプ方式でのレジ袋を減らすやり方はまだ十分に定着していませんでした。容器包装リサイクル法もでき、今ではほとんどのスーパーがレジ袋を断るとスタンプを押してくれるようになりました。でも、買物袋の持参率は15%ほどからはあまり伸びません。気づいたのは運動の目的が「レジ袋をなくそう」ではなく「できるだけ減ら

そう」という不徹底な点でした。それが運動を解りにくくしていました。逆に「レジ袋はごみ袋などに使えるから必要だ」の意見も多く聞きました。

いちばん効果的なのは、韓国が最近実施したように法律でレジ袋を有料にすることです。杉並区のレジ袋税の決定もその変形です。

つまりごみ減量の行政施策の一環としての積極的体制が欲しいことと、そのためにお店との協働ももう少し強くした運動にして再出発したいというのが今の考えです。(Z)



第2回地球環境シネマ

「里山から考える21世紀」

—— 豊中アジェンダ21と里山

豊中市職員組合、豊中市教職員組合共催のもと、8月3日（土）アクア文化ホールで「今森光彦の里山物語」とアースビジョン地球環境映像祭受賞イ・ウイホ監督の韓国映画「たんぼ～生命をはぐくむ～」の2作品を上映しました。NHK放映で有名な今森光彦氏の里山物語と、韓国のドキュメンタリー映画の同時上映は、2002サッカーワールドカップを共同開催した記念としても意義深い事でした。

豊中アジェンダ21には、わがまち豊中がかつて里山であったこと。又その自然を大切に守り育てる為の多くの行動提案がされています。

「多くの生き物たちが住む島熊山や待兼山の緑を大切にしよう。」「先人の苦勞をしのび、安らぎとうるおいをもたらす、ため池を残そう。」等等。

里山は全市市街化されていますが、今も農家の様々な努力で農業が営まれています。人を含め動植物が自然と共生しながら営々と生きつづけてきた大切な場所が里山であり、雑木林、たんぼ、ため池です。それらは農作物の生産、多様な種の保存、ヒートアイランド現象の緩和、災害の防止など、まさに『21世紀は里山の世紀』です。自然部会はこの映画からのメッセージを受けアジェンダ21推進活動をより進めてまいります。去年のセンス・オブ・ワンダーより入場者は少なかったですが貴重な感想ご意見はたくさん戴きました。今後の部会活動の参考に大事に活かしていきます。ありがとうございました。（上田）

盛況といえたのか竹細工

8月3日の第2回地球環境シネマに続き、4日大集会室の一角で竹細工が行われた。2時間の予定が延々5時間。最後には閉会に向けて大忙しの会であった。

大集会室の大部分は、各種ダンス。懐かしい50年代のフォークダンスやワルツの曲がホールいっぱい流れる。音楽に乗って、揃いの着飾った服装の男女が華麗なステップを披露する。部門が変わる度に、司会者が次のグループを紹介する。そして私達の竹細工のことも「豊中アジェンダ21推進会自然部会の人達の竹細工が行われています。」と作品を手に、PRして

くれるが、ほとんどの人は自分のことで精一杯。出番の終わった人が出来上がった作品を見て、「これもらえませんか」と無料で持っていく。

一方ダンスの方は、飛び入り歓迎の初心者も交えたステップ解説入りのダンス。車椅子のダンスなど続々



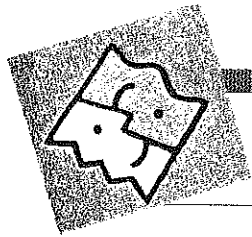
と登場し、果ては、リオのカーニバルでお馴染みのサンバの強烈なリズムと音量、裸体の美女にも圧倒されて頭がくらくらする。

今日の竹細工の為に、春日町の竹林に数人が1日入り、やぶ蚊に悩まされながら竹材を持ち帰ったり、一カ月以上前に切り倒した竹の枝打ちしたものを集めて会場に持ち込んだものも、次第に量が減ってきた。予定の2時間で切り上げてよかったが、部員の熱意で、竹箒や竹とんぼ、花差し、楽器等、数多くできたが、残った作品は大きい竹箒3本だけであった。（山口）

新エネルギークイズに730人が参加

8月3日・4日の両日、豊中まつりにおいて「新エネルギー展」が開催されました。この催しは近畿経済産業局と新エネルギー財団の協力で、豊中アジェンダ21推進会が豊中市と共催で取り組みました。太陽光発電や風力発電は模型とパネルで、また今まで聞いたこともなかった冰雪熱利用やバイオマス発電、温度差エネルギーなどについてもパネルを見ながら勉強。

クイズに答えて、子どもたちに大人気のデジモンやおじやる丸のグッズがもらえる「新エネルギーアンケートクイズ」には2日で730人もの人が挑戦しました。豊中でこのような取組みが行われるのは初めてのことで、自然エネルギーに関心を持ってもらうきっかけになったようです。（茨木）



豊中まつり・花と緑のネットワークとよなか

焼きとうもろこし&スイカ

今年は柳沢実験農場で、生ごみと剪定枝から作った堆肥を使って出来た、「ピーターコーン」とうもろこし180本とスイカ23個を販売した。

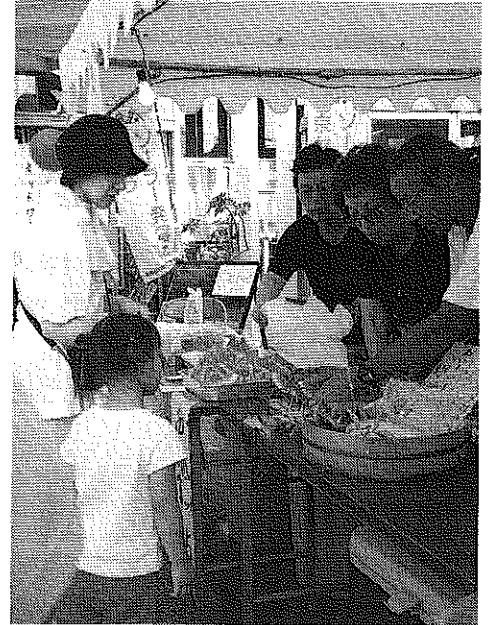
場所は去年と同じ市民会館の入口前であった。今年は大集会室で数々の催しが行われたのと、新エネルギー展が分かりやすく評判がよかったので、前を通る人が多かった。

とうもろこしは、収穫期間の関係で実が硬くなっていたので、焼く以外に一部はミキサーにかけ、コーン



スープも作った。スイカは全部切って売ったが、大きい小さいがあり、赤色の濃いのがあった。わざわざ小さいのを選ぶ人もあって面白かった。

とうもろこしは炭火で焼いたが、焼く人は暑くて汗だくでであった。匂いが人を惹き付けて焼くのが間に合わないで、待ってもらったこともあった。お祭りになると大人も子どもに帰るようである。

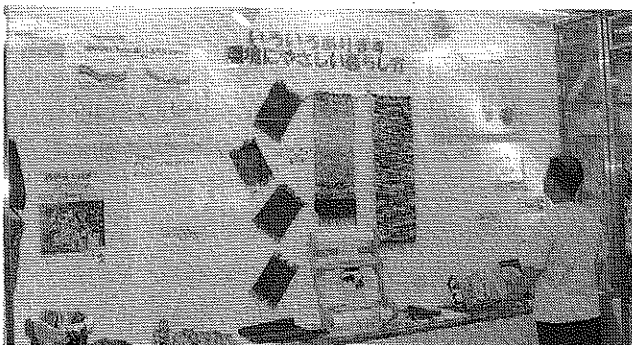


記録的な猛暑の中で、とうもろこしは焼きたてを、スイカは冷えたのが求められた。手間のかかった熱いコーンスープの人気は今一つであったが、食材を残らず利用することが出来た。(浅井)

駅前情報サロンで・ワンポイント体験

生活部会では市民活動情報サロン（豊中駅北改札を出てすぐ）で8月20日から10月1日までの間、ショーウィンドーで最近の活動を紹介するとともに、この展示期間中に行なった次の4回のワンポイント体験についての作品紹介も並べています。

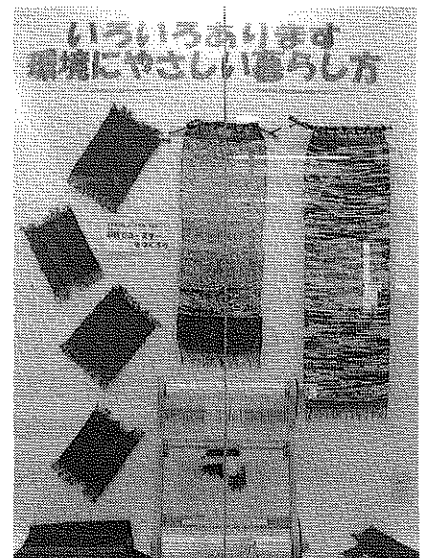
- 裂き織りでコースター作り（8月27日）
- 広告チラシで小物入れを作る（9月7日）
- 絵本の読み聞かせとパネルシアター（9月14日）
- 簡単なリサイクルおもちゃ作り（9月14日）



このワンポイント体験では、誰もが楽しんでできる環境に配慮した暮らし方を提案しました。

例えば「裂き織り」は、使わなくなったハンカチを裂いてひも状にし、それを横糸にして織り機でコースターを作る体験です。ハンカチ1枚からコースターが3枚ほどできました。手織り体験を楽しみながら「捨てない工夫」も一緒に考えました。

なお、この展示などはエコグループ、おはなしポケットの協力を得て行いました。(奥野)



創作民話

マチカネワニ：怪談特別号 第1回

ワニが淀川に住み始めて、もう2ヵ月たちました。毎日たくさん泳いで、おもしろい場所を見つけることにしています。

「今日は、他の人がするように、波うち際を歩いてみよう」と思いました。

波打ち際はまっすぐ続いて、草木が果てしなく光っているかと思えば、川の一部が草むらにまで曲がり込んで大きな溜り池を作っては出て行きます。

溜りには、いつも何人かが座ってつり竿をたれています。

向こう岸までの間には、小さな島ができています。その小さな島までの間には、土が積もって、天橋立ができています。

川はひねもす流れるうちに、いつのまにかいろんな形に変わります。

天橋立を渡ってみると、島の中にまで、畑や手作りの小屋ができていました。

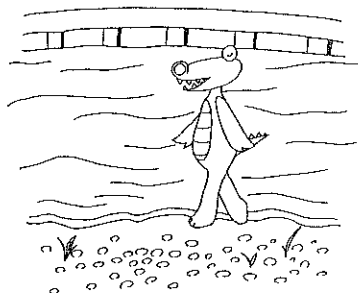
いろんな廃材を拾ってきては継ぎはぎを繰り返したような、小屋です。

歩いていると、淀川はとてもユーモアがあります。いろんなしぐさが重なって、こんなこんもりとした溜りや橋立や島ができた。

川や虫も人も、夢の中を漂うようにして、ほのめかし合ってこの場所をつくったのです。

ワニは、すうっと気持ちよくなりました。

第2回に続く... (三宅絵里子)



編集室から

9月に発行する予定が一ヵ月ほど遅くなった。これも新しい組織が出来た過程での生みの苦しみである。

次号からは、とよなか市民環境会議ニュースレターと豊中アジェンダ21推進会ニュースレター(名称は未定)と二本立てで発行する。もちろん二つを一緒に合わせてお届けする考え。どうぞ今後もよろしく。(Z)

今後のスケジュール

花と緑のネットワークとよなか

- 日 時 10月19日(土) 9:30~15:30
- 場 所 緑と食品のリサイクルプラザ、豊能町切畑
- 内 容 リサイクルプラザ 施設見学、芋掘り

- 日 時 10月24日(木) 10:30~12:00
- 場 所 緑と食品のリサイクルプラザ
- 内 容 堆肥化講習会

自然学習講座・川副昭人さんの講演

- 日 時 10月26日(土) 14:00~16:00
- 場 所 中央公民館
- 内 容 「昆虫から自然を学ぶ」

*詳しくは「広報とよなか10月号」をご覧ください。

◎次の部会等は定例的に会議を行っています。参加を希望される方は、事務局までお問合せください。

- 自然部会 毎月第2月曜日 18時~
- 生活部会 毎月第3土曜日 13時30分~
- 花と緑のネットワーク 毎月第1金曜日 14時~
- 月例会 毎月第4水曜日 19時~

◎交通、産業部会は、随時会議等を行っています。詳しくは、事務局までお問い合わせください。

訂正とお詫び

ニュースレター第17号4頁で、食品廃棄物規正法とありますが、通称『食品リサイクル法』と呼ばれるもので、正式名称は、『食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律』です。訂正してお詫びいたします。

発行：とよなか市民環境会議
編集・制作：豊中アジェンダ21推進会
編集責任：奥野 享
事務局：豊中市生活環境部環境企画課内
〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1
TEL:06(6858)2106 FAX:06(6842)2802
<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>
Eメール kankyouki@city.toyonaka.osaka.jp
★とよなか市民環境会議は、市民・事業者・行政のパートナーシップ組織です

《広報チーム》 Z奥野、W岩瀬、M荒井、Y小南、
T浅井、E三宅、A亀村、P大村